

2 夏山に足駄を拝む首途哉

— 芭蕉 —

光明寺の役の行者像の健脚にあやかって、これからの道中の無事を祈った句です。



修験光明寺跡

1 野を横に馬牽きむけよほととぎす

— 芭蕉 —

広々とした那須野の情景を詠み、ほととぎすの鋭い声のイメージが夏の野の風情を巧みに表現しています。



光明山常念寺

芭蕉翁と黒羽

「那須の黒羽という所に知る人あれば、これより野超えにかかりて…」

松尾芭蕉翁は、その弟子曾良を伴い、元禄二年（一六八九年）「おくのほそ道」へと旅立ちました。

旧暦四月三日（新暦五月二十一日）、黒羽に到着した芭蕉は、十六日（新暦六月三日）までの十四日間、十三泊十四日という最長期間黒羽に逗留し、多くの足跡を残しました。

黒羽の豊かな文化と情緒溢れる景観に強く心をうたれた芭蕉は、ここで同行の曾良とともに数多くの句を詠みました。これらの句は、まちの東西に広がる神社等に句碑として残され、黒羽の四季の移ろいを静かに眺め続けています。



7 山も庭も動き入るや夏座敷

— 芭蕉 —

ダイナミックなタッチで、黒羽の山河と浄法寺家の庭園の美しさを絵画的に表した句です。



旧浄法寺邸

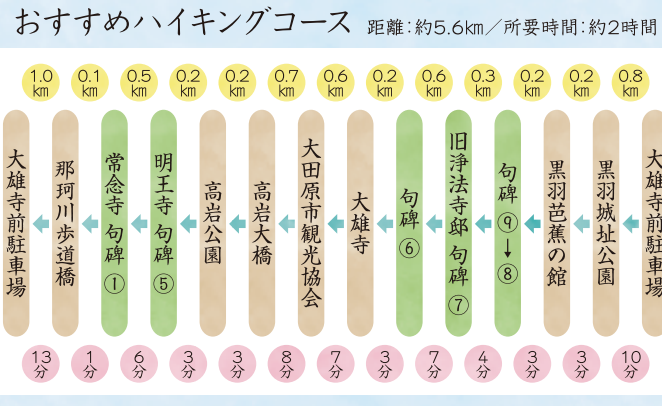
6 行春や鳥啼き魚の目は泪

— 芭蕉 —

奥の細道の旅立ちに当たったの感慨で胸いっぱい芭蕉は、離別の涙、惜別の情を込めて、この句を詠んだのです。



芭蕉の道入り口



観光ボランティア

団体のお客様を対象に、芭蕉の里くろばね観光ボランティア「ふるさとを知る会」がご案内します。ご利用の方は、2週間前までに下記までお申し込みください。

お申し込み・お問い合わせ 大田原市観光協会 TEL0287-54-1110

